

# 来週の金融市場見通し



しんきんアセットマネジメント投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第338号  
Shinkin Asset Management Co., Ltd. 加入協会/一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会  
〒104-0031東京都中央区京橋3丁目8番1号 URL: [https:// www.skam.co.jp](https://www.skam.co.jp)

< 11/11 ~ 11/15 >

米大統領選では共和党のトランプ前大統領が勝利しました。赤をシンボルカラーとする共和党が大統領に加え、上下両院で多数を握る「トリプルレッド」になれば、政策の実現可能性が高まるとの観測が強まっています。他方、米連邦公開市場委員会(FOMC)では、予想通り政策金利を0.25%引き下げました。パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長は利下げペースについては慎重に判断する姿勢を示しました。来週はトランプ氏の言動や米消費者物価指数などを確認しながら、方向感を探ることになりそうです。

## ◆株価：底堅い動きか

【予想レンジ】日経平均株価

(来週) 38,500~41,000円 (11月) 34,500~42,500円



来週は、米大統領選挙などの重要なイベントを通過した安心感から底堅い動きとなりそうです。トランプ氏が大統領選で勝利したことを受けて、同氏が掲げる減税などの景気刺激策への期待が株価を支えそうです。また事業法人による自社株買いとみられる資金流入などが継続していることも好材料です。ただ、これまでに発表された7-9月期の国内企業決算では、市場予想を上回る内容となった企業は少なく、株価の大幅な上昇は困難とみられます。

## ◆為替：ドル底堅い

【予想レンジ】ドル円レート

(来週) 152.0~155.5円 (11月) 145.0~158.0円



ドル円は、底堅い地合いが継続しそうです。トランプ前大統領の政権への振り返りが確実となったこともあり、ドル円は一時154円台に上昇しました。米長期金利が上昇基調で推移する中、ドル円は来週も底堅い展開が見込まれますが、選挙結果は織込み済となったことから、ドル円の一段の上昇余地は限定的となりそうです。また、1ドル155円を超えてくると、日本政府高官からの円安けん制発言なども想定され、ドル円の上値を抑えそうです。

## ◆長期金利：米大統領選後の居所を探る

【予想レンジ】長期金利(新発10年債利回り)

(来週) 0.90~1.10% (11月) 0.80~1.10%



米大統領選でトランプ氏が勝利し、連邦議会選でも共和党が上院の多数派を握ったことから、共和党が掲げる政策の実現可能性が増し、インフレ圧力や財政悪化懸念が強まるとの見方が広がり、米長期金利が大きく上昇したことを受け、国内の長期金利も一時1%を上回りました。FOMCは予想通りで、影響は限定的でした。来週は米金利の動きに加え、30年国債、5年国債入札などを確認しながら、居所を探ることになりそうです。

## ◆Jリート：上下に振れる展開か

【予想レンジ】東証REIT指数

(来週) 1,625~1,725ポイント (11月) 1,600~1,800ポイント



来週のJリート市場は、日米の長期金利の動向に左右される展開が想定されます。自公連立政権と積極財政を掲げる国民民主党の政策協議や、トランプ次期政権が打ち出す政策による米国の財政悪化懸念、インフレ圧力の上昇などが日米長期金利を押し上げる可能性があり注意が必要です。Jリート市場は当面外部環境に振らされる状況が想定されますが、下値ではJリートを拾う動きも見られることから、下落幅は限定的になると見込まれます。

■来週の主な内外スケジュール

	国内	海外
11/11 月	日銀「金融政策決定会合にかかる主な意見」 (10/30・31 開催分) 景気ウォッチャー調査 (10月) 貸出・預金動向 (10月) 国際収支 (9月)	◎米休日 (退役軍人の日)
11/12 火	マネーストック (10月)	独ZEW景況感指数 (11月)
11/13 水	企業物価指数 (10月) 30年利付国債入札	米消費者物価指数 (10月) ユーロ圏鉱工業生産指数 (9月)
11/14 木		米生産者物価指数 (10月) 米月次財政収支 (10月) ユーロ圏GDP統計 (24/7-9 月期、改定値)
11/15 金	<b>GDP統計 (24/7-9 月期、1 次速報)</b> 鉱工業生産指数・稼働率指数 (9月、確報値) 第3次産業活動指数 (9月) 5年利付国債入札	米NY連銀製造業景況指数 (11月) 米鉱工業生産・設備稼働率 (10月) <b>米小売売上高 (10月)</b> 米輸入物価指数 (10月) 中国小売売上高、工業生産、固定資産投資 (10月) 中国新築住宅価格 (10月)

(注) スケジュールの内容、日程が変更になる可能性があります。

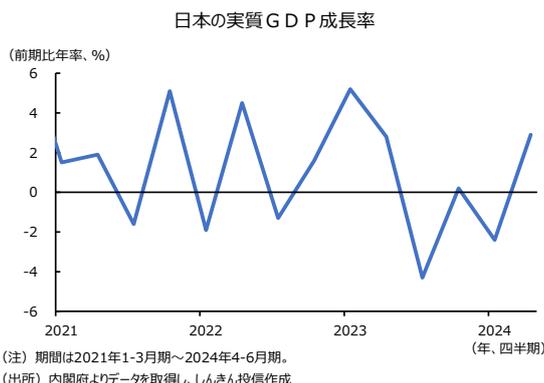
(出所) 各種報道を基に、しんきん投信作成

■来週の注目点

**GDP統計(24/7-9 月期、1 次速報) 11月15日(水)発表**

4-6 月期の実質国内総生産 (GDP) は、前期比年率 2.9%の増加と、2 四半期ぶりのプラス成長となりました。一部自動車メーカーの認証不正問題を受けた出荷停止の影響が和らいだことから、個人消費や設備投資が増加に転じました。

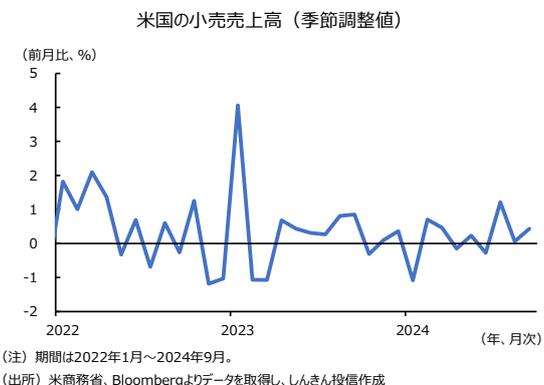
7-9 月期の成長率は大きく縮小する見込みです。賃上げや所得・住民税の定額減税により家計の所得環境は改善したものの、災害や物価上昇の影響から個人消費は力強さを欠いたとみられます。また、台風による工場の稼働停止などを受けて、設備投資は減少した可能性があります。



**米小売売上高(10月) 11月15日(金)発表**

9 月の米国の小売売上高は前月比 0.4%の増加と、市場予想を上回る伸びになりました。内訳をみると、食料・飲食や衣料品などを中心に幅広い品目で増加しました。

10 月は前月比 0.3%増と、増加基調が続くとみられます。高金利を背景とする借入コストの高止まりが続いていますが、雇用環境が底堅いため、個人消費は堅調を維持すると見込まれます。



**<本資料に関してご留意していただきたい事項>**

※本資料は、ご投資家の皆様に投資判断の参考となる情報の提供を目的として、しんきんアセットマネジメント投信株式会社が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。

※本資料は、信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。また、いかなるデータも過去のものであり、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。

※本資料の内容は、当社の見解を示しているに過ぎず、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。記載内容は作成時点のものであり、予告なく変更する場合があります。

※投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の補償の対象ではありません。また、登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。

※投資信託は、値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります）に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。

※特定ファンドの取得のお申込みに当たっては、販売会社より当該ファンドの投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ又は同時にお渡しいたしますので、必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。

**【お申込みに際しての留意事項】****■投資信託に係るリスクについて**

投資信託は、株式や債券等の値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります）に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。

また、投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面をよくご覧ください。

**■投資信託に係る費用について**

（お客様に直接ご負担いただく費用）

- ◆ ご購入時の費用・・・購入時手数料 **上限 3.3%(税抜 3.0%)**
- ◆ ご換金時の費用・・・信託財産留保額 **上限 0.3%**

（保有期間中に間接的にご負担いただく費用）

- ◆ 運用管理費用（信託報酬）・・・純資産総額に対して、**上限年率 1.628%(税抜年率 1.48%)**
- ◆ その他の費用・・・監査費用、信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、有価証券売買時の売買手数料等および外貨建資産の保管等に要する費用は、ファンドより実費として間接的にご負担いただきます。また、投資信託証券を組み入れる場合には、お客様が間接的に支払う費用として、当該ファンドの資産から支払われる運用管理費用、投資資産の取引費用等が発生します。これらの費用につきましては、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。投資信託に係る上記費用（手数料等）の合計額については、ご投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

**《ご注意》**

上記に記載しているリスクや費用につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、しんきんアセットマネジメント投信が運用する全ての投資信託のうち、ご負担いただくそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資される際には、事前に投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面をよくお読みください。

※本資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。